

<実践報告>

大学生の実用英語技能検定試験へ対する主体的な学びに関する調査研究 —英検の学習及び指導への示唆—

天 久 大 輔^{*}

A Study of University Students' Active Learning for the English Proficiency Test —Implications for Learning and Teaching for EIKEN—

Daisuke AMEKU^{*}

要 約

英検へ対する主体的な取り組みを通し、学習及び指導に関し以下5点が明らかになった。

- 1) 英語力向上を目的とし、英検取得を目指すことで、主体的な学びに繋がると判断できた。
- 2) 英検指導においては、4技能を向上させる形で指導をしていく必要性が推察された。
- 3) 英検対策へ対し、「主体的な学習」のみならず、学びの3要素の重要性が示された。
- 4) 英検対策を行う際に、アクティブラーニング型の指導が望ましいと示唆された。
- 5) 主体的な学びを促進する具体的な英語4技能統合型の指導方法の構築が今後の課題である。

キーワード：英検、主体的な学び、英検（英語）学習、英検指導

1. はじめに

日本における英語教育改革に伴い、学校教育や英語教育産業界においては、以前にも増して英語指導に力を注いでいる。この現状に伴い、第二言語として英語を熱心に学ぶ学習者が増加していると解する。日本人学習者は、自己の英語学習の到達度及び成果を測る手段として、検定試験を受験することが一般的である。そこで本研究においては、英検へ対する主体的な学びとは何かを理解し、今後の英語指導について推敲していく。

2. 研究内容

日本において2020年度から小学校英語が必修化され、個人及び学校教育においても、今後さらに英語指導及び学習へ対する熱心な取り組みが加速化すると見据える。具体的には、平成29年告示の小学校学習指導要領に

おいて、高学年において英語が必修化された。また、中学校学習指導要領解説外国語編（2018:17）の第2節においては、英語の目標は、英語の特性を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの5つの領域に細分化されている。これまでの4技能指導から、「やり取り」の導入により、4技能・5領域の指導へと移行している。日本社会において、グローバル化に対応する人材育成の観点から、小学校・中学校・高等学校・大学（以下：小中高大）における英語教育の連携（ここでは英語指導に関する連携を指す）が今後さらに不可欠であることは言うまでもない。

先に示した英語指導における4技能・5領域に関する英語指導の重要性とは、英語学習者の視点で捉えると、習得すべき技能・領域として位置づけられている。この4技能・5

^{*}沖縄大学 人文学部 国際コミュニケーション学科 (Faculty of Humanities, Department of International Communication)

領域の英語力を測り、自己の英語学習の成果を証明するテストには様々存在する。その中で、英語4技能を測るテストとして、これまで実用英語検定試験（以下：英検）が幅広く教育現場において活用されている。これは受験生自身が受験段階での英語能力を知り、今後どこまで伸ばせるかという到達度の可視化を可能にし、客観的に英語力を捉える試験だからであろう。また、現在、高校入試や大学入試の推薦基準として、英検2級合格などが数値化され、合否に大きく関わっている。そして、高等学校においては、毎年、文部科学省が実施している全国学力調査として、英検IBAテストを基に、各都道府県別の高校生の英語力のデータが公表されている。さらに、沖縄県の教員採用試験（英語科）においても、英検準1級以上が加点の対象となり、幅広く英検が英語の能力を測定する試験として活用されている。これは、沖縄県の採用試験に限らず、他の都道府県においても同様なことが行われ、自己の有している英語力を証明することで、優遇措置が取られていることを指す。単純に英検の試験結果によって、総合的な英語力を判断することは十分であると言いがたい。しかし、英検協会（2021）によると、2016年度から2020年度にかけて、毎年約370万人が受験していると報告している。このような受験者増の現状を考慮すると、英語能力の到達度や達成度を測るテストとして、英検を活用することが日本国内において主流であることは明確である。小学校英語教育の導入、中学校・高等学校の新指導要領への移行などの現状を踏まえると、今後さらに英検を受験する児童・生徒が増加することが見込まれる。しかし、英検合格という目標が前提となり、英語を継続して学ぶ意義と英検受験の目的との間に大きな開きがあるように思われる。

大学においても、学生が英検対策に関する講義を受講し、英検を受験する機会が増加している。多良 他（2018:11-17）は、英検合格を目指した授業取り組みとして、小学校教員を目指す教育学部生34名（英検準1級コー

ス：24名、英検2級コース10名）に対し、英検取得を意識した講義を行った。教員採用試験合格を見据え、小学校において英語が必修化されることもあり、英語学習の必要性を学生に実感してもらうことが目的である。講義を受講した学生からは、「学校の先生になるには英語が必要であることを知った。」などの肯定的な内容が記載されており、大学において、主体的に英検対策に取り組む姿勢が伺えた。

中学校学習指導要領外国語編（2018:7）の第1章 総説の改訂の要点において、学びに不可欠である資質能力とは、知識及び技能が習得され、思考力・判断力・表現力等を育成し、学びに向かう力・人間性等を涵養することであると記述されている。英語学習においては、異なる言語として知識を習得し、実際に使用することが求められる。その前提として、学びに向かう力、つまり主体的に学習に取り組んでいく姿勢がこれからの言語習得にとりわけ重要になってくるのではないか。ここで、言語学習において、主体性とは何か具体的に熟慮する必要がある。梶田（1996: 1-67）によると、自己を育てることが、「主体」を育てることであると述べている。具体的には、人間としての「主体」的なあり方が、自覚を持ち、自分自身に対する統制力を持ち、自分自身を自分の願いとする方向に形成していく自己成長性・自己教育性を伸ばさせるという意味である。また、この「主体」を体得する上で、学びへ対する振り返り、自己認識及び自己概念の形成、そして自分自身を評価する大切さを伝えている。学びを通して主体性を身につけるためには、長期的な視点で自己を振り返る必要性が理解できる。学びへ対する主体性の育成は、英語に限らず様々な科目に関しても同様なことが言える。ここでは、英語の学びを通し、主体性を体得する姿勢とは具体的にどういうことなのかを理解しなければならない。バトラー（2021:283-292）が以下（図1）で示している、デジタル時代に必要な言語コミュニケーション能力の育成が

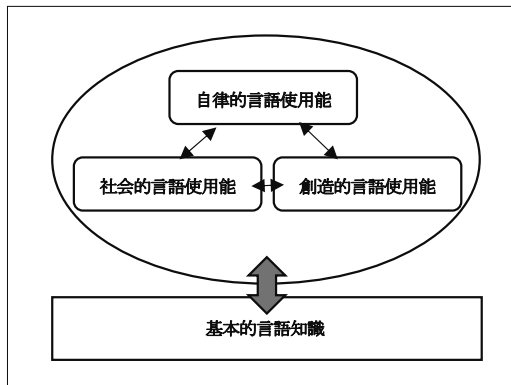


図1 デジタル時代に必要な言語コミュニケーション能力 (パトラー)

語学の学びを通じた主体性の確立を提言していると考えられる。

これからの言語コミュニケーション能力とは、基本的言語知識を母体とし、その知識を自律的、社会的及び創造的に使う能力であると着想が述べられている。具体的には、自主的に言語活動を行い、他者と協働しながらタスクを遂行し、既存の知識を新しいコンテキストの中で応用する相互の関係性が今後の言語コミュニケーションに不可欠であることを意味する。キーワードである、「自主的」、「協働」、「応用」とは、言語学習における主体的な学びとは何であるかを詳細に説明しているのではないかと、本研究における英検への学習が、どのように主体的な学びと関わりをもっているかを考察する際に重要な手がかりになると考える。

沖縄大学の英検対策関連科目には、「英語リテラシーⅠ、Ⅱ」、「英検対策Ⅰ、Ⅱ」の科目がある。その中で、国際コミュニケーション学科の必修科目である、英検準2級取得を目指した「英語リテラシーⅠ」を受講した学生に絞り、本研究を進めていく。理由として、大学初年次に履修する科目である「英語リテラシーⅠ」を受講している学生が、高校卒業後、大学における英語学習に対してどのような目的意識を持ち、今後の4年間を大学生として主体的に学んでいくかに着眼する必要性を感じたからだ。初年次における英検学

習へ対する主体的な取り組みを理解することで、英語教員として、今後の4年間の英語指導に対し、一貫性を持って取り組むことが可能になってくるのではないだろうか。その手立てとして、学生の英検への主体的な態度を、選択形式及び自由記述形式の質問紙によって調査を行った。学生の主体的な学びとは何かを考察し、今後の大学における英検指導とのつながりについて示唆していく。

次章以降は、沖縄大学における学生の英検対策に関する英語学習への意識を整理し、アンケート調査から見える主体的に取り組む姿勢について考察する。まとめとして、今後、英検対策関連の講義においてどのような指導の構築が必要かについていくつか述べたい。

3. 沖縄大学における「英語リテラシーⅠ」の位置づけ

本学の国際コミュニケーション学科、英語コミュニケーションコースの必修科目である。講義概要は次のように示されている。英語を専攻する国際コミュニケーション学科生として、最低限有していることが期待される英語能力養成を目的とする。「英語リテラシーⅠ」では、英検準2級相当の英語力をしっかりと使いこなせるレベルまでに訓練する。知識としての英語力ではなく、使える英語力を念頭に置き、音読中心に訓練を行い、英語の基礎を身体にしみこませる（シラバスより一部抜粋）。このように、英語の「知識」としての英語習得に限らず、「使える英語力」とあるように、「英語リテラシーⅠ」は、1年次において、総合的な英語力向上を目指す講義になる。2021年度前期は、3クラスに分かれており、全体の人数としては59名の学生が履修した。

4. 研究方法と分析方法

(1) 調査時期とデータ収集方法

調査に関しては、2021年6月から2021年8月までの期間に実施した。調査対象は、沖縄大学において「英語リテラシーⅠ」を受講し

ている3クラス(59名)の1年生を対象に行った。収集方法としては、Googleフォームを利用してWeb上で収集し、得られたデータをExcelファイルとしてダウンロード、誤字脱字などが無いかないかの確認作業を行い、Excelのピボットテーブルを活用し、クロス集計を行った。学生には匿名でアンケートフォームに回答してもらい、個人情報の漏洩に対して配慮した。有効回答数は51%(30名)であった。

(2) 調査内容

調査内容に関しては、英検取得へ対する意識、英検へ対する学生の主体的な取り組みなどに関して18項目(表1)を設定した。以下、アンケート調査の項目である。

表1 英検へ対する学習及び主体的な学びに関するアンケート

質問1	英検取得を目指す理由は何ですか。
質問2	中学時に英検の学習を個人で行いましたか。
質問3	中学時の英検学習(個人)はどのように行いましたか。
質問4	中学時の英検学習(個人)は効果的でしたか。
質問5	高校時に英検の学習を個人で行いましたか。
質問6	高校時の英検学習(個人)はどのように行いましたか。
質問7	高校時の英検学習は効果的でしたか。
質問8	高校時に受けた英検指導は効果的でしたか。
質問9	高校時の英検指導が効果的だった理由は何ですか。
質問10	現在受講している講義へ対する努力レベル
質問11	この講義において努力した点は何ですか。
質問12	講義において主体的に学ぶことができましたか。
質問13	質問12に関連し、どのように主体的に学ぶことができましたか。

質問14	質問12に関連し、主体的に学べなかった理由は何ですか。
質問15	主体的に英検対策に取り組むにはどのような学びが必要ですか。
質問16	質問15において「その他」と回答した場合、主体的に英検対策に取り組むためにどのような学びが必要だと思われますか。
質問17	英検対策を行うことでどのような力が身につくと思いますか。
質問18	あなたにとって英語を学ぶ意義とは何ですか。

上記の質問項目を基に、英検学習と主体的な学びについての関係性について考察していく。

5. 結果と考察

本研究テーマは、英検学習と主体的な学びとの関係性を調査し、今後の英検指導について示唆することを目的としているため、質問1の「英検取得を目指す理由」と質問12の「講義において主体的に学ぶことができたか」についての関係性を考察していく。そして、質問15の「主体的に英検対策に取り組むにはどのような学びが必要か」の項目と、質問17の「英検対策を行うことでどのような力が身につくか」の両項目を考察し、今後の英検指導について示唆していきたい。

(1) 英検学習と主体的な学びとの関係性

図2は、英検取得を目指す理由を「英語力向上のため」、「海外留学のため」、「就職活動のため」の3つに分け、学生の「英語リテラシーI」における主体的な学びとの関係性を示している。図2の外枠の破線が英検取得の目的を示しており、内側の実線が主体的に取り組んだ人数を指す。アンケート調査から、「英語力向上」が63pt、「海外留学」が20pt、「就職」については17ptの結果が得られた。初年次の学生であることから、多くの学生は、大学に入学し、英語力の向上が重要であると捉えているのではない。その中で、質

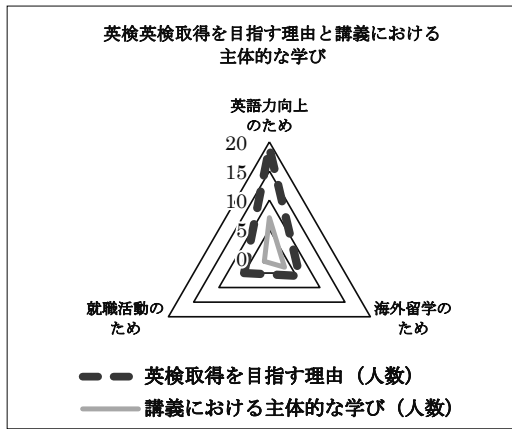


図2 英検取得を目指す理由(質問1)と主体的学びの関係性(質問12)〔主体的な学びに関して「強くそう思う」・「そう思う」と回答した場合〕

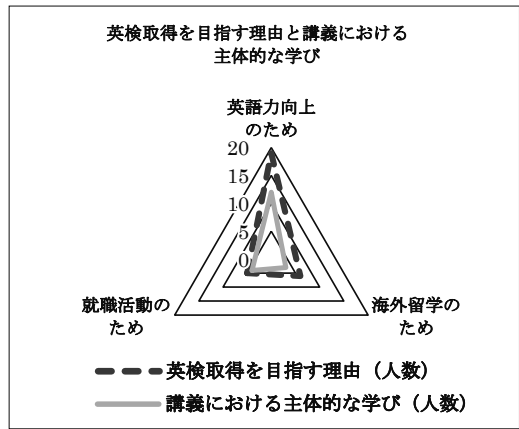


図3 英検取得を目指す理由(質問1)と主体的学びの関係性(質問12)〔主体的な学びに関して「どちらともいえない」・「そう思わない」と回答した場合〕

問12の「講義において主体的に学ぶことができたか」については、英語力向上と回答した学生の中で、「強くそう思う」・「そう思う」は37ptであった。また、海外留学を目的とし、英検取得を目指す学生については、50ptの学生が主体的に講義を学ぶことができたと述べている。就職を目的として英検を学習している学生の講義に対する主体的な取り組みは13ptであった。この調査から、「海外留学」及び「英語力向上」を目的として英検取得を目指す学生に関しては、講義に対して主体的に取り組む傾向があると解釈できた。「海外留学」については、留学する際にある一定の英語力が必要であり、英語力を測る試験として英検取得の必要性を感じているのではないかと推測できる。試験の合否によって、どれだけ自己の英語力が伸び、留学が可能になるかを知ることができるからだ。また、広い意味において、「英語力向上」を目的としている学生は、自身の英語力の伸長について可視化する上で、英検取得は一つの物差しになっていると考える。結果として、英検取得を目指す理由が動機づけとなり、講義へ対して主体的に学ぼうとする姿勢が生じていると考える。

一方で、図3は、図2と同様に英検取得を目指す理由を「英語力向上のため」、「海外留学のため」、「就職活動のため」の3つに分

け、学生の「英語リテラシーI」における主体的な学び(回答:「どちらともいえない」、「そう思わない」)について示したものである。内側の実線が示すように、質問12の「講義において主体的に学ぶことができたか」について、英語力向上と回答した学生は、「どちらともいえない」・「そう思わない」が63ptであった。また、海外留学を目的とし、英検取得を目指す学生についても、50ptの学生が、講義へ対し主体的に学んだとの肯定的な意見は出なかった。就職を目的として英検を学習している学生の講義に対する主体的な取り組みに関しては、「どちらともいえない」、「そう思わない」が87ptであった。数字で表すと、個々の目的に応じて主体的に取り組むことが達成できていないように思われるが、具体的には、質問1において「英語力向上のため」と回答した学生の中で、「どちらともいえない」が83pt、「そう思わない」は17ptであった。また、「海外留学」を目的として英検を学習している学生においては、「どちらともいえない」が100pt、「そう思わない」は0ptであった。

さらに、「就職活動のため」に関しては、「どちらともいえない」が75ptで、「そう思わない」が25ptであった。つまり、主体的に学ぶということについて、肯定的な回答ではなかったにせよ、「どちらとも言えない」と大多数の

学生が回答していることから、主体的に学ぶ意味や意義について講義を通して適切に伝える必要性が課題として顕在化された。しかし、アンケート調査の質問18における、「英語を学ぶ意義とは何か」の項目に関しては、「どちらともいえない」、「そう思わない」と回答した学生の自由記述には肯定的な回答が述べられていたので、以下原文を掲載する。

- ・ 将来の自分の道を広げるため
- ・ たくさんの人とコミュニケーションをとる
- ・ 国際的な繋がりが広がる
- ・ コミュニティを広げられる方法の一つ
- ・ 自分の可能性を増やす

など

上記が示すように、多くの学生は英語を学ぶ意義について肯定的に捉えていることが理解できる。つまり、これから英語力を向上することで、自己の幅が広がり、コミュニケーションツールとして役立つのではないかとこの考えは、主体的な学びを通して言語習得に繋げていきたいと解釈できるのではないかと、学生が主体的な学びに資するために、指導者としてどのようなことができるのか考慮するきっかけになると感じている。

(2) 英検対策を通して身につく力と英検指導の関係性について

ここでは、学生が英検対策において、英語学習者の視点から、どのような学びが必要であるかについて調査した。同時に英検対策において身につく力は何であるかアンケートを通して調査を行い、その関係性を考察した。

質問15の「主体的に英検対策に取り組むにはどのような学びが必要ですか」に対する回答として①「スピーキング」、②「ライティング」、③「リスニング」④「リーディング」、⑤「4技能」の5つの選択肢に分け、選択形式にて調査した。また、質問17は「英検対策を行うことでどのような力が身につくと思いますか」の質問に対し、①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」、③「主体的な取り組み」、④「①～③のすべて」と4つの選択肢に分けた。図4が示すように、英検対策にはどのような学びが必要かについては、「スピーキング」、「ライティング」及び「リーディング」が3pt、「リスニング」が33pt、「4技能」が54ptであった。多くの学生が英検対策においては4技能を統合した英語の学びが必要であると認識していることが読み取れた。英検の試験が4技能を測ることから、インプット（リーディング及びリスニング能力）及びアウトプット（ライティング及びスピーキング）の学習が重要であると解釈できる。また、この背景には、大学入学以前での、中学・高校での英語の学びからも大きく影響されているのではないかと考える。

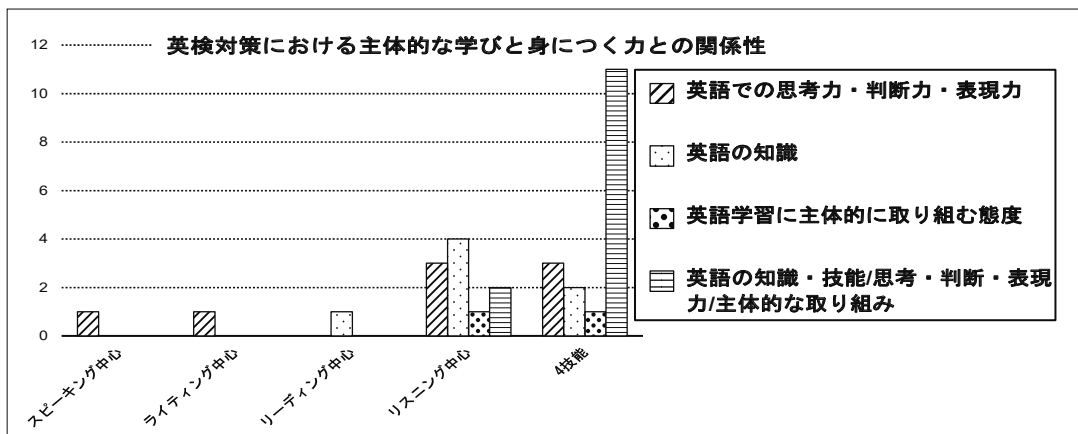


図4 英検対策に必要な学び〔質問15〕と英検対策を通して身につく力〔質問17〕との関係性

この結果から、英検指導においては、統合的に4技能を向上させる形で授業運営をしていく必要性が推察された。

さらに、英検対策において、4技能の学びが必要であると回答した学生(54pt)の中で、英検対策において身につく能力として、65ptが「英語の知識・技能」・「英語での思考力・判断力・表現力」、「英語学習に主体的に取り組む態度」が統合的に身につくと回答した。結果的に、「主体的な取り組み」についてのみが英検対策には必要であると回答した学生は全体の6ptであった。しかし、英語学習においては学びの3要素(主体的な学び含む)が包括的に身につくべきであると多くの学生が回答していることから、講義では、英語学習へ対し主体的に取り組むには、アクティブラーニング型の講義が望ましいと示唆された。

具体的な数値によって、英検対策へ対し、学びの3要素の重要性が示されたことは意義があり、学生へ対して、具体的な指導方法を考える必要があると改めて認識できた。

6. 今後の課題

本研究を通して、英検へ対する主体的な取り組みの必要性が示唆され、今後の学習及び指導に関しては、4技能を統合したアクティブラーニング型の講義が望ましいという結果になった。しかし、今後の指導実践へ向けて、具体的にどのような指導を行うかさらなる検証が必要になってくる。以下の内容を課題として提示することで、これからの英語指導に繋げていきたい。

(1) 英検指導における主体的な学びを促進する指導の工夫について

「英語リテラシーI」やその他の英検関連科目を担当していると、多くの学生から、「英検合格にはどのような学習をする必要があるのか」との質問を受ける。その質問に対して、合格のための知識・技能の習得方法について伝えるだけでなく、今後の英語学習を継続していけるような助言を行っている。本研究

を進めるにあたり、学生の意識として、英検へ対する英語学習には主体的な学びが必要であると解釈できた。しかし、今後の英検対策として、具体的にどのような指導方法が主体的な学びに繋がるかについては至らなかった。バトラー(2021)が述べるように、自立した学習者として、主体性を持ちながら、協働的に学ぶ姿勢が今後の言語コミュニケーション能力に繋がるとあるように、どのような指導実践が必要になるか研究をさらに深めていきたい。

(2) 英検対策における4技能統合型授業の実践へ向けて

本研究においては、1年次対象である「英語リテラシーI」の受講学生へ対しアンケート調査を行った。初年次においては、今後、大学生として必要となる英語力を強化するために、主にリスニング中心に講義目的が設定されている。今後の大学4年間における英語学習の前提として、英語インプット量の強化が不可欠である理由からだ。すべてのクラスにおいて統一した試験として、5回のリスニングテストを課することで評価を行っている。

今回の調査において、学生の英検対策には4技能統合型の英語学習が必要であると認識できたことを踏まえ、「英語リテラシーI」は、総合的な英語学習としての科目の位置づけであることを再確認する機会であった。和泉(2016:45-70)は、これまで言語形式を重視してきた日本の英語教育に対して、今後バランスの取れたコミュニケーション能力の育成の必要性を述べている。具体的には、言語形式のみならず、使用する言葉の意味内容及び言語機能の統合的な指導を英語指導に取り入れる必要性を伝えている。4技能統合型の授業において、言語形式・意味内容・言語機能を意識しながら、具体的な英検指導を構築していくことが今後の課題である。

学生の英語学習が有益であり、将来に活かすことができるよう、他の英語教員と連携しながら、指導と評価の一体化を具現化し、こ

れからの英語指導に努めていきたい。

〈参考・引用文献〉

- 1) 和泉伸一(2016) フォーカス・オン・フォー
ムとCLILの英語授業 株式会社 アル
ク, pp.45-70
- 2) 梶田叡一(1996) 〈自己〉を育てる ～
真の主体性の確立～ 株式会社金子書
房, pp.1-67
- 3) 多良静也・松原史典・長谷川雅也(2018)
「英検合格を目指した授業の取り組み」.
高知大学教育研究論集, 23巻, pp.11-17
- 4) バトラー後藤裕子(2021) 「デジタルで
変わる子どもたち」～学習・言語能力の
現在と未来～ ちくま新書, pp.283-292
- 5) 文部科学省(2018), 中学校学習指導要
領(平成29年告示) 解説 外国語編 開
隆堂出版株式会社, p.17
- 6) 前掲書, p.7

〈参考・引用ウェブページ〉

- 1) 英検協会ホームページ
[https://www.eiken.or.jp/eiken/
merit/situation/](https://www.eiken.or.jp/eiken/merit/situation/) (2021/8/18)